

⑥0 復興支援道路整備事業 一般国道343号^{しぶたみ}渋民バイパスほか工区

受賞機関 岩手県 県南広域振興局 土木部 一関土木センター

キーワード 復興支援道路、バイパス事業、ICT施工

全建賞審査委員会の評価ポイント

沿岸部と内陸部を結ぶ岩手県内の主要幹線道路3路線の復興支援道路の整備。多くの現場でICT施工を活用して品質及び作業効率の向上を図るとともに、現場説明会の開催や高校生のインターンシップ受け入れなど次世代への建設業の魅力向上に努めたことは評価された。



現場説明会（左）、インターンシップ（右）の様子

1. はじめに

一般国道343号、342号、284号の3路線は、東日本大震災津波で大きな被害を受けた岩手県沿岸部と内陸部を結ぶ主要幹線道路である。

本路線は緊急輸送道路に指定されており、東日本大震災津波の際も、沿岸部の被災者の救出、救援物資の輸送などに大きな役割を發揮したことから、県では復興道路を補完する「復興支援道路」に位置付け、災害に強いネットワークの構築を目指してきた。

一関管内における渋民工区（一般国道343号）、^{しらかけ}白崖工区（一般国道342号）、^{いしほっけ}石法華工区（一般国道284号）は、急カーブや急勾配が連続する隘路区間となっており、交通事故が多発するなど安全で円滑な通行の支障となっていた。

各工区は、これらの課題を解消し、災害時における緊急輸送道路としての機能強化、物流機能の向上による産業振興や観光地へのアクセス向上による地域間の交流連携の促進を図るため、平成24年度に事業化されたものである。

2. 事業の概要

本事業は、^{たてした}館下トンネル311mをはじめ、橋梁2橋や前後の道路改良を含めた3路線全体延長約9.2kmのバイパス事業である。

工事では、多くの現場においてICT施工を積極的に活用することにより、品質向上及び作業効率の向上を図った。作業の効率化を図ることで、作業人員数削減によるコスト縮減のほか、工期短縮に寄与し、東日本大震災津波から10年目となる節目にあわせてバイパス区間を開通させることができた。

また、地元現場説明会の開催や高校生のインターンシップを積極的に受け入れ、建設現場におけるICT施工の状況などを発信することを通じて、次世代へ建設業の魅力発信し、近年問題視されている建設業の若者離れ対策に貢献した。

3. 事業の成果

今回の開通により、課題となっていた幅員狭小、急勾配、線形不良等の通行支障箇所が解消され、安全・安心な走行環境を確保することができた。

また、緊急輸送道路としての機能強化、物流機能の向上による産業振興や観光地へのアクセス向上による地域間の交流連携の促進が期待されている。



一般国道343号 渋民工区

4. おわりに

当路線の全線開通により、復興支援道路として整備を進めてきた県内38箇所全ての整備が完了した。

整備完了に伴う幅員狭小、急勾配、線形不良等の通行支障箇所の解消により、内陸地域の発展と安全・安心な通行の確保に貢献するとともに、物流の効率化による沿岸地域の復興の支えとなることが期待される。

賛助会員 (株)建設技術研究所、(株)土木技研、(株)ピーエス三菱、東日本コンクリート(株)、八千代エンジニアリング(株)